

平成30年度 堺市障害者自立支援協議会 第8回 障害当事者部会
議事概要

日時	平成31年1月23日(水) 14:00~16:00
場所	堺市総合福祉会館 5階 第2研修室
出席者 (敬称略)	井坂、茅原、川崎、辻本、梶田、川淵、松本、丸野、石橋、西野
欠席者	北村
傍聴	6名(安城市地域自立支援協議会作業部会)
事務局	【堺市障害施策推進課】足立、木村
事務局補助	【総合相談情報センター】富田、濱

※本日愛知県安城市より視察あり。

終了後、意見交換会に参加できる委員が少数なため、15:30~意見交換とした。

1. 障害を理由とする差別やおかしな対応をされた事例の共有

○辻本委員より事例提供あり。医療機関受診時の医師対応について。

【意見交換】

- 自分もヘルパーに話されたり同じような経験をしている。自分はめんどくさいから、ヘルパーと話したかったら話していいと思っている。相手にしてはばかばかしいし、いちいち話の流れを止めてはとってしてしまう。本当は話をしていかないといけないと思うが、それでいいわとってしてしまう。本当に怒りを通り越して、笑っていないと仕方ないになってしまう。昔、10代の時、電車に乗ろうと思ったら、車いすで電車に乗ったら危ないので、電車に乗るなら車いすから降りてくださいと言われた。そんな時代から生きているので。
- 今から20年くらい前までは駅員でもヘルパーに言う事が多かった。こっちを見なかった。駅はだいぶ改善されている。
- こういうことの改善のために差別解消法が出来たと思う。そのために行政の中に対応する部署があると思う。
- 差別解消法を弁護士は知っているとは思いますが、軽く見られている。罰則がないから。そんな感じ。
- 私も同じような体験をしている。視覚障害があり、信号が渡れない。母と一緒にないといけないが、病院は視覚障害のことは外見上分からないので、一人で来てくださいますとてくる。
- 片耳が聞こえない夫が、堺市の病院手術を受ける際、分からないことがあり、「耳の不自由な方はお申し出ください」と看板ある窓口に行ったが、その看板に色んな物が置かれていて看板が見えづらかった。それを指摘したら職員に嫌な顔された。また、歯医者で、

精神障害の方が来られて、受付の女性スタッフ同士でその人の悪口を言っているのが聞こえてしまった。医療の人は、表向きは配慮していると言っているが、全く中身が伴っていない。それを指摘してもこちらが嫌な思いをするので言いたくない。

- 最初に医師の対応について辻本さんが言ったことに対して謝っておられる。この医師としたら自分の非を認めてこの話は終わったと思っていた。その後で堺市から来られた。個人事業主として考えた際、最初お客さんから怒られて謝って終わったと思っていたら、次は行政が来た。その時も謝ったが、まだ続くんじゃないかと思ったんじゃないか。鴻池新田駅のエレベーター訴訟があったが、駅員が「じゃまな車いす」と言ったことに対しては、不利益を認めたが、エレベーターがないという事実については何も問われなかった。
- 2年くらい前に大きな病院に行った。顔も打撲したのでCT撮るということになった。1人では先生とのやり取りが上手くできず、自閉スペクトラムのことを伝え、コミュニケーションが苦手と伝えたが、全く障害についての配慮もなく、質問をたくさんされて、てんかんについても受け入れてくれなかった。結局何も分からず帰らされた。ヘルパーも常時来てもらっているわけでもないのに、障害特性についてもメモにして渡しても医師に伝わっていないことが多い。結局病院に行かなくなった。予防接種もつらい思いをするなら病院に行かなくていいとなって、自分の体のことも分からない。病院に行っても悲しくなるし、行かなかたら負けた気がしてくやしい。

2. その他

- ブログは更新なし。
新しい委員から誰かの紹介文を載せたいので自己紹介文を書いてもらいたい。
- 事務局より
2/22 市協議会の予定。年間の取組み、交流会の報告などをする予定。報告者を誰にお願いするかなどまた追って連絡する予定。

3. 安城市との交流会

(安城市の方より)

- 2年前に視察に来たが、この度やっと当事者部会が出来ることになったので、再度視察に来た。
- 今日の様子を拝見して、安城市でもこういう場を作らないといけないなと思った。
- 普段はピアサポーターの方と活動しているが、ピアの方の代弁することに力を割いてきたが、ご本人たちが思いを話をしてもらった方がいいと感じた。
- 今日の経験を普段の活動にも活かしていきたい。

(意見交換)

- 堺まで電車で来たが、駅員の対応は、愛知県よりも東京がよくて、東京よりも大阪がいいと感じる。どこの駅も車いすの対応する際、係の人が来て対応してくれるまで30分くらいかかるが、大阪はすぐ乗れる。スピード感が違う。駅員と一緒に乗ってくれたりもする。

- 差別事例については、自分も医者への対応に疑問を感じれば、突っ込んでしまう。医者任せという感覚より、自分の感覚を信じる中で付き合ってくれる医者を探す。医者や障害を持って生きる人とはかなり隔たりがある。
⇒発達障害も周囲にわかってもらえないことが多い。研修とかでわかることではない。対応する人の生き様が対応に現れる。その人の人間性と勝負していかなあかんから、戦ってはいけない。先輩からはかわいそうな人、障害の理解をする能力がない人だから憐れんであげなさいと言われた。
- 委員をこれから選考するのだが、1年目何もやったことがない人が何となく集まることになるので、何をやらいいかを聞きたい。
⇒何をやるかテーマを決めておく。毎月の話のテーマを決めておく方がいい。最初は勉強会でもいいかも。自己紹介なども。
- 構成は、全体で12名、身体4、知的2、発達2、精神2、難病2の予定。
⇒堺も当初、身体は身体のこと、精神は精神のことしかわからないので、それを共有する雰囲気を作る。できれば共通する困りごとを出してもらって、テーマにするとか、慣れてきたら交流会をするとか。ここは代表で、堺の人の思いを伝えていくという役割。
⇒極端な話、笑うしかないような差別事例も出て来ている。わかりにくくなって、根が深い、根強く残っている。人の意識はなかなか変えられない。時間をかけて変えていくしかない。それをやっていくためにも意識の共有から始めてはいいのでは。
- 安城市は若い障害者が差別、自立といったことにあまり執着しなくなった気がする。福祉サービスも充実してきた分、社会を変えなくてもいいなど。自分より下の人たちは世の中の流れに沿って行けばいいなどという雰囲気。若い人たちに向けての活動とか、当事者部会に限らずあればいいなど考えている。
- 堺の発達障害に関しては、戦うのはやめよう。少なくとも発達障害に関しては。社会を変えようとするのもやめよう。まず自分が変わろうというスタンス。社会の人たちが発達障害について教えてとなればいい。若い人も参加してくれて、リーダーを任せていける人もいる。会も16に増えた。これだけ増えたら行政も放っておかない。そういう地道な活動が必要。ほとんどはフェイスブックやツイッター。圧力団体にはなって欲しくない。行政と協力して、戦いたいわけではなく、社会を変えていきたい。

○次回：平成31年2月27日（水） 堺市総合福祉会館5階 14：00 開始
 テーマ「65歳問題について」（司会：北村委員）